

私はいつかはこの村からいなくなる人だから～5年計画でやりたいこと～

私はいつかはこの村からいなくなる。これは活動の撤退を示唆する言葉でなく、ずっと考え続けていた事。8年前、千原せいじさんがアフリカに住む日本人を訪ねる「こんなところに日本人」に出演した時に「私を必要としなくなった時が潮時」とせいじさんに話しました。時は流れ、世界中がコロナ禍になり自由に旅をすることが出来なくなった2020年。そしてコロナで活動休止になり再開した2021年1月、目標を決めました。それは5年計画で村の若い先生の育成をするという事です。国連はSDGsを掲げ2030年までに17の項目のゴールを目指すとしています。ゴールはあくまで一つの目標のゴールであり、その続きつまり新たな目標設定につながります。それと同じで、5年後を第一のゴールに設定して若い先生を育成していこうと確実な目標にしました。以前にも同じような内容を記したことがあります。2019年12月9日付ガーナ挨拶No29 本当にたいせつなことは何だろうと考えた時にいきついた答え～持続可能な教育をするために後継者を育てる～で学校の卒業生であるセラスイが先生として働き、生徒として在籍していた時のセラスイは声が小さくそろばん教室に通っていたという話を聞きようやく彼を思い出した事。その彼が2019年当時2年生と3年生の授業をする中、日々私が授業に訪問するのを熱望し、また私が行なった授業を実践したいと言ったこと等がきっかけとなり、この村のこの学校で子どもたちがワクワクドキドキするような授業を作る先生を育てたい。持続可能な教育をするための後継者作りを目指す、このNo29で語ったのです。その目標建は出来たものゴールを決めることなくただただ進み、コロナになり一年の活動休止、そして再開した今年1月にゴールを明確化して進もうと決めたのです。おそらくコロナにならなかつたら、ただただ後継者作りに進んでいたと思います。活動再開した年月である2021年からの5年計画でゴールは2026年1月。あくまでも撤退でなくこれは目標のゴール。ワクワクドキドキする授業を私でなく、ガーナの先生が子どもたちに出来たら、ガーナの先生も子どもも授業が今以上に楽しくなるに違いない。そう思わずにはられません。

ガーナ挨拶 No37 2021/06/19 國分敏子

